

第2分科会（広報委員会）

テーマ：

「十年先の備え～防災教育のすすめ（ワークショップを通して）～」

- 1, 講師： 福井県防災士会（学校防災アドバイザー）
- 2, 参加者： 83人
- 3, 分科会内容

平成28年は、災害の多い年となりました。

広報委員会では、災害が発生した時、保護者として学校とどう連携したら子供たちを守れるのか？東日本大震災で実際起きた『釜石の奇跡』と『石巻市立大川小学校の悲劇』を事例に、ワークショップを通して防災教育の大切さを考える分科会を行いました。

講師は、松井峰晴さんら四名の防災士を講師にお願いいたしました。当日は、最初にご講演をしていただきました。東日本大震災で津波に襲われながらも人的被害がほとんどなかった釜石市釜石東中学校、対照的に大部分の児童を失った石巻市大川小学校の二校の対応とその原因について、スライドを交えながら説明していただきました。『防災学は結果論』との批判もありますが、災害被害を抑えるには結果から学んでいくしかない。」と語られる松井さんの言葉に熱く胸をうたれました。

その後は、6人前後のグループに分かれてのワークショップとなりました。「授業中に大地震が発生したら、あなたのとる行動は？」とのテーマでグループごと話し合い、発表しました。嶺北・嶺南、山間地区・沿岸地区、保護者・教師と様々な立場の参加者が混じり合い、「子どもを災害から守るには」という一つのテーマのもと、県PTA連合ならではの会意義なワークショップを展開できました。